

日本大学生物資源科学部放射線利用施設

研究業績

平成 28 年度

糸長浩司

飯舘村の放射能汚染実態と今後、除染の効果と限界ーセシウム降下・住宅・樹木・木材汚染ー、IISORA
2016 福島シンポジウム「原発事故放射能大災害から 5 年、生活・コミュニティ再建と邑の復興を語る」
飯舘村放射能エコロジー研究会

2016 年 2 月

糸長浩司、原発事故災害と農村計画

農村計画学会誌、34-4

2016 年 3 月

糸長浩司

自然との共生居住権の喪失と二重居住権の確立をー原発事故による放射能汚染被災地飯舘村等の支援
活動を通して

日本災害復興学会誌『復興』、NO14

2016 年 3 月

糸長浩司

原発災害からの農村再生 パート 2ー福島県民避難実態と意識、チェルノブイリ災害 30 年から学ぶ
農村計画学会誌、35-1

2016 年 6 月

糸長浩司

福島の地域復興の現状と課題ー飯舘村の汚染実態、除染限界、二地域居住シナリオー、農村と都市を結
ぶ

pp8-23

2016 年 6 月

糸長浩司

自然共生居住権の剥奪と奪取ー原発人災による放射能汚染地域の居住・非居住計画論、破局計画論、日
本建築学会大会農村計画委員会協議会資料、p33-42

2016 年 8 月

糸長浩司

飯舘村の除染効果と限界、日本建築学会東日本大震災における実効的復興支援の構築に関する特別調査
委員会最終報告

ii-109-111

2016 年 8 月

糸長浩司

「震災後 5 年目、飯舘村民の生活・コミュニティ再建に向けて——除染の限界と自然共生居住権の再構築——」

『生活協同組合研究』2016 年 3 月号

2016 年

糸長浩司

福島の地域復興の現状と課題—飯舘村の汚染実態、除染限界、二地域居住シナリオ—、『農村と都市をむすぶ』、pp8-23、6 月号

2016 年 6 月

糸長浩司監修著

巻頭言 低炭素社会・経済・環境の理念、pp8-15、「BIOCITY68 号」、(株)ブックエンド

2016 年 10 月、全 126 頁

糸長浩司、浦上健司、關正貴

農林地での放射能汚染実態と除染限界-福島県飯舘村避難解除準備区域 K 農場等の調査を通して

2016 年度日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集農村計画

2016 年 9 月

浦上健司、糸長浩司

東京電力福島原発事故による放射能災害に伴う地縁コミュニティの現状と課題—福島県飯舘村の 20 行政区長の聞き取りを通して

2016 年度日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集農村計画

2016 年 9 月

關正貴、糸長浩司

住宅内外・里山の放射能汚染実態と除染限界-福島県飯舘村居住制限区域内 S 宅の調査を通して

2016 年度日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集農村計画

2016 年 9 月

糸長浩司、浦上健司他

帰村宣言を前にした二地域居住・帰村者の暮らし・農林業農村計画学会震災復興研究シンポ・ポスター、東日本大震災の教訓に学ぶ～持続と連携の視点から～

陈 静璇、青田彩花、島村 真保子、増澤(尾崎) 依、細野 崇、関 泰一郎

シナモン熱水抽出物はインスリンシグナルを活性化する

第 21 回日本フードファクター学会（富山）

2016 年 11 月 19 日

田辺真太郎、新宮良宣、美川務、柴田武彦、新井直人

出芽酵母 Rad51 の N 末端領域の機能について

日本分子生物学会

2016 年 11 月 30 日

小林純、此村直人、柴田武彦、新井直人

直鎖状二重鎖 DNA 多量体形成促進における Rad51 の DNA 結合の必要性

日本分子生物学会

2016 年 11 月 30 日